

事件から数ヶ月のちの元旦、4人の元に御下から手紙が届いた。

“

自分は犯人ではない、しかし潔白も証明出来ず
獄中からこうして手紙を出している。
塀の中は退屈だが、院長がいない暮らしは良いものだ。
こんな場所でも自分と同じ冤罪仲間の善意に触れることもある。
うんめいは残酷だと、彼らとはそんな話をしているよ。
前科持ちの人間はどうやって出所後生きていくのだろう。
院長の不正行為も自分がした事になってしまっているのに。
でも当然の報いなのだろう、心の中で何度メッタ刺しにしたのか分からないのだから。

”

すぐに釈放されるだろうという犯人の思惑叶わず、動機が重視され逮捕。
いつ御下が解放されるか分からない中、全員の心には雨が降り続けている。

あめかんむり 元旦に降る雨

—end—

produced by kanata-W